

平成 14 年度第 1 回支所長会議の概要について

標記会議は、理事、所長、総務部長、総合防疫研究官、各研究部長、プリオン病研究センター長、製剤センター長、各支所長、七戸研究施設長、研究企画科長、研究交流科長、情報資料課長、衛生検査科長、実験動物管理科長、庶務課長、会計課長等が出席して、平成 14 年 11 月 25 日（月）に本所大会議室において開催された。

初めに、理事より独立行政法人化されて 1 年半の間に見られた農業技術研究機構及び動物衛生研究所の変化等についての説明があった。それ以降の会議の概要は以下の通りである。

1. 情勢報告

総務部長より農業技術研究機構における一般職のあり方について、平成 14 年度昇級・昇格者の説明の後、平成 15 年度運営費予算要求の概要についての説明があった。続いて、所長より生物系特定産業技術研究機構との合併に伴う農業技術研究機構法の一部を改正する法律案の概要説明の後、企画調整部門の再編・強化についての動物衛生研究所案が示され、討議の後この案が承認された。また、平成 14 年度の試験研究推進会議、試験研究成績・計画検討会及びプロジェクト研究推進会議等、各種会議の運営方法及

び評価関係作業計画について説明、討議がなされた。

2. 各研究部、プリオン病センター、生物学的製剤センター、各支所及び七戸研究施設における運営上の問題点

各長より各部所における運営上の問題点及び要望事項が提示され、活発に討議された。

3. 所議提案として疫学研究部長より「動物衛生研究所微生物等管理要領（案）」について、各部所に持ち帰りライン討議して欲しい旨の依頼があった。

4. 評価企画会議

疫学研究部長、感染症研究部長、海外病研究部長、安全性研究部長、七戸研究施設長より重要検討事項及びプロジェクト研究素材案が提出され、活発に討議された。重要検討事項等の取りまとめは、企画調整部に一任し、第 2 回支所長会議において再度検討する事とした。

5. その他

全ての議事において活発な討議が行われ、予定時間を若干超過したものの、会議は無事終了した。

（研究企画科主任研究官）

シンポジウム

牛海綿状脳症（BSE）制圧に向けたナショナル・プロジェクトの展開

◆基調講演

A review of BSE research in the United Kingdom
（英国におけるこれまでの BSE 研究と今後の展開）
英国獣医学研究所 TSE 研究担当部長

Dr. Danny Matthews

◆農林水産省における BSE 研究の取り組みについて

◎平成 15 年度から開始する BSE プロジェクトの概要
農林水産省農林水産技術会議事務局研究開発企画官
土肥 宏志

◎動物衛生研究所プリオン病研究センターについて
（独）農業技術研究機構動物衛生研究所長 清水 実嗣

◆講演

〈プリオン病の発生メカニズムの解明〉

◎プリオン蛋白質の異常化機構の解明と治療法の開発
国立精神・神経センター神経研究所疾病研究第 7 部部長
金子 清俊

◎プリオン病の発病機序
（独）農業技術研究機構動物衛生研究所プリオン病研究センター
病原・感染研究チーム長 横山 隆

〈プリオン病の診断技術の開発〉

◎ Near Infrared Spectroscopy for Disease
Diagnosis and Prion Protein Isoform
Identification

（近赤外分光法による疾病診断とプリオン蛋白質異性体の同定）

神戸大学 農学部 助教授 Dr. Roumiana Tsenkova

◎新たなトランスジェニック動物を用いた BSE 診断について

一反さう動物遺伝子を中心にしてー

東京大学大学院 農学生命科学研究科教授 小野寺 節

◎生前診断技術の展開

（独）農業技術研究機構動物衛生研究所プリオン病研究センター
センター長 品川 森一

◆パネルディスカッション

（財）日本生物科学研究所理事 山内 一也

ほか全講演者